

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

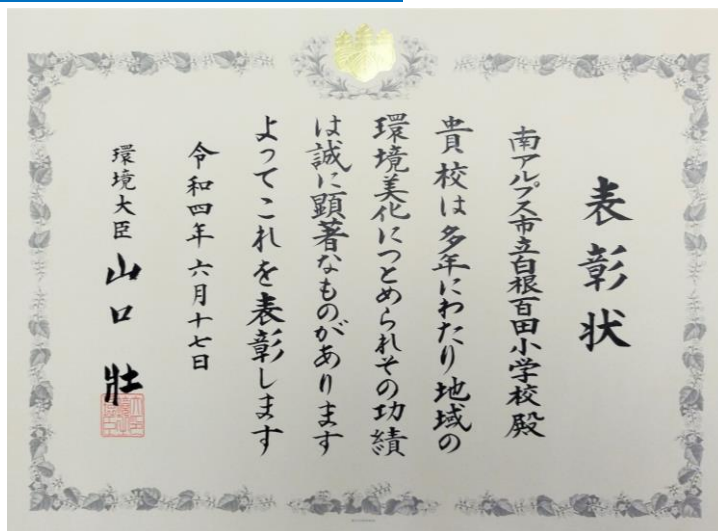
- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

環境大臣より表彰を受けました

No.7でもご紹介しましたが、本校では、土曜参観の折に親子で通学路のごみ拾いをしたり、国土交通省の「ボランティア・サポート・プログラム」に参加したり、「環境学習会」を実施したりしていました。新型コロナの蔓延もあり、現在は休止となっていることが多くありますが、4年生が実施しているエコパ伊奈ヶ湖での学習プログラム、学年での野菜づくりや委員会での花づくり、愛校作業、ペットボトルキャップの再利用など、続けられている活動もたくさんあります。これまでの継続した取組が評価を受け、この度、環境大臣より「地域環境美化功績者表彰」をいただくことができました。これからも身の回りの環境を考えていくとともに、できることから児童や保護者、地域の皆様方と共に取り組んでいきたいと考えております。新型コロナが一息ついた折には、またお力をお貸しください。(児童には終業式の中で紹介します。)



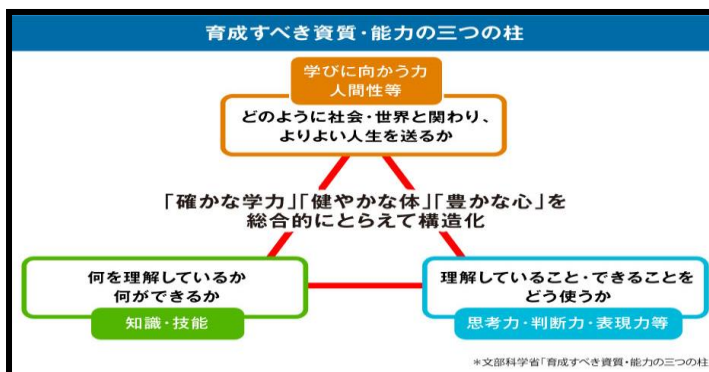
環境大臣より「地域環境美化功績者表彰」をいただくことができました。これからも身の回りの環境を考えていくとともに、できることから児童や保護者、地域の皆様方と共に取り組んでいきたいと考えております。新型コロナが一息ついた折には、またお力をお貸しください。(児童には終業式の中で紹介します。)

通信表の見方が変わります

現行の学習指導要領では、子どもたちに育成する力の柱として、①知識・技能の習得、②思考力・判断力・表現力の育成、③学びに向かう力・人間性等が取り上げられています。今年度の通信表より、この三つの柱を基に、これまで重きを置かれがちだった「知識・技能」だけでなく、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」や「主体的に学習に取り組む態度」を評価していくこととなります。これによって、これまでは一つ一つの単元ごとの評価だったものが、教科全体をまとめて評価する形となります。特定の分野に課題がある場合などにつきましては、表記にてもお示ししていきますが、わかりにくい場合にはお尋ねください。

- ◎…十分に目標に達している場合
- …おおむね目標に達している場合
- △…目標達成にさらに努力を要する場合

昨年までのように、「☆十分達成(高学年のみ)」「◎めあてに達している」「○もう少しで達成する」「△努力しよう」ではなく、○が「おおむね達成」となり、これまでより基準が上がりま(厳しめになります)。来週さらに詳しい資料が出されますので、そちらもご覧ください。



*文部科学省「育成すべき資質・能力の三つの柱」

今できることを考える

アメリカの先住民に伝わる『ハチドリの一とすく』という短い話があります。

森が燃えていました
森の生きものたちは われ先にと 逃げていきました
でもクリキンディという名のハチドリだけは いったりきたり
口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは
火の上に落としていきます
動物たちがそれを見て
「そんなことをして いったい何になるんだ」
といて笑います
クリキンディはこう答えました
「私は、私にできることをしているだけ」



このクリキンディというハチドリのしていることをどう思いますか？

このハチドリの行動は勇気をもってのことだと感じられます。それに比べて他の動物たちは臆病者で自分さえよければいいといった卑怯者に感じられます。でも、その動物たちにも、幼い子供を守らなければならないなど、一目散に逃げなければならない理由があったのかもしれない。

クリキンディの行いは、他を非難したり怒りを感じたりする暇があったら、自分のできることをできる範囲でやろうと、私たちに伝えてくれているようです。一人にできることは一滴でも、それが集まれば一筋の流れとなり、やがて一つの川となります。

私たちは学校や社会の中で、たくさんの人とのかかわりあいの中で生きています。「朝元気に挨拶すること」「友だちの良さに拍手を送ること」「ともに考えを出し合い、学びを深めること」・・・子供たちには、今できることを考えて、いろんなことに挑戦していてもらいたいと思います。

さて、『ハチドリの一とすく』の訳者である辻 信一さんは、物語の最後にこう記しています。「燃えていたあの森はその後、どうなったのでしょうか。森は燃えてなくなってしまったのでしょうか。それとも・・・。物語の続きを描くのはあなたです。」

百田小の児童の皆さんは、どんな物語をつづるのでしょうか。

同様な内容に、江戸時代の儒学者である新井白石にまつわるこんな話もあります。毎日朝から晩まで遊びほうけている白石を見て、お父さんは米びつを指し「米を一粒とっても減ったかどうかわからない。けれども一年、二年、毎日一粒ずつ米をとっていくと減ったことがわかる。反対に毎日一粒ずつ加えても増えたかどうかわからない。しかし一年、二年とたつと増えたことがわかる。学問も同じである。」と。



この話を聞いた白石は学問に目覚め、やがて六代将軍徳川家宣をささえ、政治を行う人となるのです。

一滴、一粒、一日、一時間・・・最初の一步を大切にしたいものですね。

長い夏休みは、何かを始める（挑戦する）には絶好の機会になると思います。